



栄光の未来

R6.3.8
第21号

卒業生に贈る言葉(式辞)

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。加えて、9か年の義務教育の修了を、心よりお祝いいたします。

3年前、コロナ禍で東石山中学校に入学した皆さんにとって、中学校生活は様々な制約を伴ったものになりました。しかし、3年生となった今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類となったこともあり、それまでの2年間とは異なり、最高学年として様々な活動に思い切り取り組むことができた1年間であったと思います。東翔祭でリーダーシップを発揮する姿や合唱発表会で下級生を圧倒する合唱を発表する姿に、それを強く感じました。



堂々の入場行進 ～祝福の大きな拍手を受けて～

全校で取り組む生徒会活動についても、その牽引役はやはり3年生でした。「協想～笑顔確定運ジャーズ～」のスローガンのもと、自主・自律、協働、自治を目指して本部や専門委員会で様々な活動を推進してくれました。

このように、皆さんが身をもって最上級生としての姿を下級生に示してくれたこと、これこそが最高学年としての3年生の存在意義や存在価値であったとも言えます。素晴らしい足跡を残して、これから新たな道を進もうとしている皆さんに、期待を込めてはなむけの言葉を贈ります。

時代が急速に変化し、考え方や価値観の多様性が尊重される時代がやってきました。つまりそれは、個が尊重される時代とも言えます。そんな時代を生きる皆さんには、「自分らしさ」を大切に、これからの人生を歩んでもらいたいと願っています。

自分の価値は、他者との比較や一つの考え方、基準によって決まるものではありません。自分のよさを自分自身が認め、一人一人が自分の持ち味を発揮していくことが大切なのです。人と同じでなくていい、自分は自分でいいのです。

この「自分らしさ」を大切にすることというのは、すなわち相手のよさや持ち味を大切にすることでもあるはずです。つまり、多様性や個性が尊重される時代であればこそ、他者に対しても寛容であることが求められるとも言えるのではないかと思います。

現在、世界に目を向けると、ロシアによるウクライナへの侵攻やイスラエルとパレスチナの紛争など、多くの争いが各地で続いています。主義・主張の異なる対立をはじめ、「正解」を見出すことの難しい問題はたくさんあります。しかし、自分とは異なる考えを受け入れない排除の論理ではなく、「最適解」や「納得解」を模索し、合意形成を図る努力をすることが、これからの社会を生きる私たちには求められています。

個が尊重されるこれからの社会は、皆が共に生きる共生社会です。「目指す姿」を掲げ、自分を高めようとする努力を重ねるとともに、他者とのかかわりも大切にして、中学校卒業後の人生をたくましく、豊かに歩いていくことを願っています。

4月からは新しい世界での生活がスタートします。東石山中学校で過ごした3年間で自信と誇りに、新たな一歩を思い切り踏み出していきましょう。

卒業生の皆さんの一層の飛躍を祈念し、式辞といたします。